

## ■高校野球のケーススタディー（第38回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○選手権大会でこのようなプレイがありました。

2アウト走者なし。OB-1Sからの2球目。投手が投球動作を開始したが、バランスを崩し投球を中断しました（ボールは投手が保持）。球審はタイムを掛け、ノーカウントと宣告し、ボールカウントOB-1Sから再開しました。

さて、このプレイですが、「ボーク（反則投球）になる？」と思われる方が多いと考えますが…プレイの解説をしていきます。

まず、投手の反則行為についてですが、走者の有り／無しによってペナルティが変わります。

**走者有りの場合** ⇨ **ボーク**（公認野球規則 6.02(a)(1)～(13) とペナルティ）。

・各走者は1個の安全進塁権

- ・打者がボークの投球を打撃した場合は、各走者と打者が少なくとも1個の塁を進んだ場合（安打、失策、四球、死球、その他）を除き、打者は打ち直しとし、各走者を1個進塁させる。

**走者無しの場合** ⇨ **反則投球**（公認野球規則 6.02(b)、定義 38）

⇒①投手が、投手板に触れないで投げた打者への投球

②クイックリターンピッチ

上記2項目で**ボールを宣告**します。

- ・打者が反則投球を打撃した場合は、打者が1個の塁を進んだ場合（安打、失策、四球、死球、その他）を除き、ボールを宣告し打者は打ち直しとなる。6.02(b)【原注】⇒投球動作中に、投手の手からとび出したボールがファウルラインを超えたときだけ、ボールと宣告されるが、その他の場合は、投球とみなされない。

では、今回のケースを振り返ってみます。ポイントは「走者の有無」「ボールが投手の手を離れたかどうか」です。

今回は、**走者無しの場合**なので、まず**反則投球**に該当するか判断します。「投球動作の中断」をしていますが、これは反則投球に該当しません。次に「**ボールが投手の手を離れたかどうか**」ですが、「投手が保持したまま」なので、ボールはファウルラインを超えておらず、**投球とみなさない**という判断になり、ノーカウントで投球をやり直すことになりました。

もちろん、今回のプレイを**走者有りで行った場合は、ボークが適用**されます（6.02(a)(1)）。**投手の手からボールが落ちた場合もボークが適用**されます。（規則 6.02(a)(11)、6.02(b)【原注】）

高校野球のケーススタディー第2回でも同じテーマを取り扱っています。今年度は投球動作に関して、大きな規則改正がありました。従来通りの部分も多くありますので、整理しておきましょう。